



奏友会掲示板

皆様、ごきげんよう。気温差の激しい今年の晩秋でさえ、いつの間にもやら冬を迎える準備が整いつつあり、学び舎から見える北鎌の山々は、美しく色づいています。コロナ災禍に始まった災いは、戦に、温暖化に、円安に、直上げにと、手を変え品を変え、私達の心身から平穩を遠ざけるかの様に、世の中が動いております。翻弄される私達は、先を見据え、選択を見誤らぬよう、過ごして生きたい、行きたいものです...なかなか難しい昨今ですが...

その様な中、癒しの北鎌倉女子学園『第57回定期演奏会』が、11月19日に無事に終了いたしました。コロナ感染者数が増加に転じる中での開催の為、より細心の注意を払い、演奏会は進みました。プログラム内容は、いつも通りの生徒の個人演奏の他に、フルート三重奏、弦管合奏、38期生の先輩方による木管金管ピアノ三重奏<松本圭奈子(Trp.) / 田中由貴(Sax.) / 仁部優子(Pf.)>、音楽科3年生徒による高校合唱、そして2年ぶりのナマ音による「学園の四季」でした。中でも、珍しい組み合わせによる【トリオ】は、金管とも思えぬ柔らかさに耳が心地よくなり、【三年合唱】は9名でのマスク装着演奏でありながら、N児やひばりに負けぬ端正で透明感に溢れる響きに心穏やかになり、久方ぶりに耳にするナマ音の【学園の四季】では、心癒されました。生の演奏によって解き放たれた音は、想定以上に心を捉えて離さぬことを知りました...。私達が思っているよりも『ナマ音』にはパワーが在ります。我々音楽人は、それをもっと知り、そしてその力を使い、役立てなければならないのではないのでしょうか。

さあ、災禍に疲れ切った心にエネルギーを注げる様、腕を磨き、励み、進んで参りましょう。どうぞお健やかに、お過ごしください。そして来年こそ、お目もじいたしましょう。

佳き新年をお迎えくださりませ。



第57回 定期演奏会



ごきげんよう！音研です

音楽科主任 浦畑 裕一

こんにちは。

お元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。前号より、あっという間に月日が経ち立冬も過ぎ、年末の気配も感じられます。現時点では(11月中旬)ひとまず落ち着いたかに思われた感染状況も、またまた拡大傾向にあり、東京都はすでに1日の感染者が1万人を超えの日もありました。第8波が徐々に拡大、またまた医療の切迫という言葉がメディアから聞こえてきたりしています。学園では今週末に定期演奏会をむかえます。感染状況や社会状況をみて、今年度は高3の合唱、そして演奏会の最後に「学園の四季」合唱を行う予定です。可能な限り今できることを最大限に行う……。現高3は文化祭でのミュージカル、オペラの発表もできずコロナ禍に翻弄されている学年です。なんとか高3のみでも「合唱」歌わせてあげたいと言う気持ちでした。今週最後の練習を行いました。一所懸命歌う姿になんとも言えない、明るい気持ちになりました。演奏会や発表会、コンクールといった活動も徐々に戻ってきたような……。

しかし、Withコロナとは言うものの、まだまだ特效薬が開発されたわけではありません。感染を(「BQ.1.1」)決して侮ってはいけないのかもしれませんが。かく言う私も気をつけていたつもりでしたが8月に感染し、よくわからない喉の痛みと気管支の違和感に悩まされながら「ワクチンの効果で軽症？」だと信じて、次のワクチンを打つかどうか思案中……。コロナの日々に慣れつつあるものの、生徒も教員もなんとか明るく元気に日々を過ごせればとつくづく思う今日この頃です。

みなさまもどうか安全にお元気でお過ごしください。

定期演奏会感想

この学校に入学してから私にとって5回目の定期演奏会が終わりました。私は主に舞台裏での仕事に努め、必要な道具の確認、バミリなど、本番を円滑に進めるためのお手伝いをしました。演奏を終えて舞台袖へ帰ってきてから、わざわざ「ありがとうございました」と言ってくださる方が多く、その度にシンフォニアとして働くことができ良かったとやりがいを感じました。しかしながら、自分の個人演奏での反省が数えきれないくらいあるので、次の本番に少しでも活かせるよう精一杯頑張ろうと思います。また、今回の定演では全員お揃いのマスクを付けて、3年ぶりに舞台上に立っての合唱をすることができました。歌い終わったあと、北鎌に入学した頃は高3なんてまだまだだと思っていたけど、いよいよこの経験があと1回しかないのだなと寂しい気持ちが一気に込み上げてきました。これからも毎日を大切に過ごし、今自分の置かれている状況が決して当たり前ではないということを忘れずに、これからも精進していきたいです。

2年藤組(旧2年音楽科)有田夏蓮

私は、文化祭に向けての個人演奏とヴァイオリンの伴奏で演奏しました。ホールで緊張感を感じながら弾くことができ、とても良い機会になりました。舞台上のヴァイオリンとの距離感や、ホールで響いた中での音のバランスなど普段の練習では確認することが難しい練習をすることができました。本番へのイメージができたのがよかったですと思います。このような機会を設けていただき、ありがとうございました。

2年藤組(旧2年音楽科) 檜垣香乃

試演会感想

私は定期演奏会の練習として弦楽合奏を演奏しました。試演会がなければ、人前で発表する機会がないまま、本番を迎えてしまうようだったので、発表する機会ができたことは、とてもありがたかったです。実際に本番に近い形で演奏したことで、練習しているだけでは分からなかった、新たな改善点なども見つけることができました。また、本番に対しての実感も湧き、全体の団結力が高まったように感じました。

2年藤組(旧2年音楽科) 村瀬小春

2022年の文化祭は10月15日、16日に行われました。...コロナ流行中ですからマスク装着は必須の上に、午前・午後の二部の完全入れ替え制で、午前の部終了後は一度、校外に退出し、午後の部に再入場、校内での飲食スペースは設けずという、新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みが忠実に守られた両日でした。

恒例の「シンフォニア コンサート」も去年と同様に音楽ホール使用ではなく、講堂での個人演奏のみでした。コロナ以前であれば、2藤・1藤(旧2音・1音)の情熱が注ぎ込まれたクラスのオペラ等の出し物を、直接見ることが大いなる楽しみでしたが、今年も事前に撮影された出し物の、教室での動画上映で、今一つ臨場感に欠け、勿体ない感がありました。が、動画は編集の技や物の活用が素晴らしく、字幕が出たり、教室が大道具の一部になったり、校舎内が素敵な背景に変化したり、流石!今どきの生徒さん。因みに、2藤は「エリザベート」、1藤は「アナと雪の女王」のミュージカル仕立てでした。残念に思いましたことは、個人演奏の時間帯とミュージカル動画の上映時間が重なり、何方かを選択しなければならなかったことです。

音楽ホールでのコンサートの復活が待ち遠しいですね。でも、良きことも一つ有り。講堂での個人演奏でしたから場所が広く、150名ほどの皆様にお聴きいただけたことです。しかも、北鎌の山の小鳥の声付きで...

異例な形での文化祭でしたが、クラスが一つになって作り上げる貴重な体験の機会を持ち、高校時代の思い出深い1ページを新たに加えることが出来ました。今後の人生の何処かで、必ず何かしら役立つことでしょう。来年こそはコロナも終息し、通常形で、のびのびと文化祭が開催出来ることを今からお祈りしています...



2藤の動画「エリザベート」上映の様子

おたまじゃくしとかえるの会を終えて

3年振りのおたまじゃくしとかえるの会が無事終了しました。今年はコロナ禍での開催ということもあり、今まで以上に気を使う点が多く、参加者の皆様には多大なるご協力を賜りました。まずはこの場を借りて御礼申し上げます。私の生徒は今回が初めての発表だったのですが、久々に見るマスクを外した生徒たちの顔は以前より随分大人になっており、このコロナ禍の3年間をはっきりと意識いたしました。舞台袖ではそれぞれが舞台の雰囲気を感じている様子で、中には「私の椅子はもう少し低めなので3つくらい下げてください」としっかり自己申告する生徒もおりました。普段のレッスンとは違う一面を見ることができ、初めて"先生"として参加したおたまは今までより少し新鮮に感じました。プログラムに関しては、今年はマリリンバの生徒さんも参加くださりなかなか聴く機会のなかった演奏に目が離せませんでした。これからはソロ以外にも、デュオや室内楽・2台ピアノといった構成のプログラムもあったら面白いのでは...と考えているところです。来年以降もさらに面白い会になるよう、今年の実験を生かしつつレベルアップしていきたいと思っておりますので、どうぞご期待ください。

41期 おたまじゃくしの会担当 村上絢香



【ご迷惑をおかけしました】旅その2

エクアドルの首都キトからロスアンゼルスへ、そこで一泊して成田の予定だった。

「今日は飛ばないわよ！電話番号が予約表に書いてなくて、昨晚連絡ができなかった。」と空港のカウンターで軽く言われる。まだスマホのない時代。

「たぶん明日の同じ時刻！」に飛ぶらしいとのこと、詳しい説明はない。帰る気満々だったのにションボリ！

空港まで送ってくれた呼び出し電話しかない知人が

「そんなに落ち込むな、もう一泊うちに泊まればいだけ。」と言ってくれる。ありがたい。

ホテルに滞在していたら事前に連絡があり、ホテル代一泊分も航空会社に請求できたかもしれない。しかし2週間ちかく知人の部屋に無料で滞在して、知人の職場の同僚にきのこ狩りや山に鹿を見に行き遊んでいたのどうしようもない。翌日、無事に搭乗。窓側の座席で昨日乗れなかったショックと、今後の乗換えのことなど考えてボーっとしていた。となりが空席だといのに...しかし空席ではなかった。仕立てのいいスーツの若めの男性が座った、東洋系だ。日系のじいちゃんやガーガー日本語しゃべるオヤジでなくよかった。しかし中国？韓国？どこかの国の日系？日本人かな？ここはエクアドル。CAとは流暢な英語で会話している。私は砂糖とミルクなしのコーヒーをCAにスペイン語でお願いしてから、CAとの会話はスペイン語だった。おとなりさんは英語で色々話しかけてきたが面倒なのですべてスペイン語で答えているうちに、私は寝てしまった(失礼な日本人)目覚めた時おとなりさんは本を読んでいた。親切にあれこれ話しかけてくれてたのに申し訳ない！本はハングル文字だったので「よい旅を！」とだけ言って握手して別れた。その日、ロスから成田行きはなくホテルへ。到着が1日遅れる連絡を日本へするため、ホテルの部屋で国際電話のかけ方を見る。英語か〜おっスペイン語もある！解説して何とか日本へ今の状況を伝える。いろいろな言語で書かれた「電話のかけ方」をパラパラしていると最後の方に日本語あり、ハ〜もっと早くパラパラしてれば...翌日、やっと成田行きの飛行機に乗る。久々の日本の航空会社、

「日本食にされますか？カツ丼もあります。」とCA。つついカツ丼をたのんでしまった。カツ重っぽい四角い入れ物のふたを開けると、カツがすべてふたに貼り付いていて、

なんだかガックリ！おいしくなかったし。何でこんなこと覚えているのかなと不思議な気分。でも書き終わる時は「ああたたくさの人達に助けられて、今生きているんだなあと思う。」カツ丼の味なんてささいなこと。

感謝しかない！通信手段も交通手段も進化し続けているので、わからない言葉はスマホで検索して下さい。

Concert
情報

深新會

第37回作品展
二重奏への誘い

[日時] 2023年1月18日(水) 19:00開演
[会場] 東京オペラシティ リサイタルホール
[チケット] 3,500円
[問合せ] 045-803-9353 (太田)
[予約専用メール] info.shinshinkai@gmail.com

太田 彌生 作曲

「忌火」～箏篋とフルートのために(2022)
鈴木絵理(箏篋、34期生) 姫本さやか(FI.)

中川 俊郎 作曲

「とは(わ)ずがたり、シノワーズ」(2022)
演奏者1:中川俊郎、演奏者2:未定(本番間に公募、
或いは当日その場で依頼)
他、河内 琢夫氏、野澤 啓子氏、
松尾 祐孝氏の作品を演奏致します。

✓CHECK!

■奏友会新聞に連続掲載されておりました「プラハ便り」の執筆者で、「チェコからの音楽の花束」の演奏者のコーディネートに携わっていただきました8期生のフィンダ志保子さんが、11/25の日に、四十数年ぶりに母校を訪問され、理事長先生、校長先生、浦畑先生、小沢先生方と歓談され、北鎌のエチュード(練習室)や北鎌の山々を懐かしく思い出されていらっしやいました。

■【次号154号 新聞原稿募集!】

皆さんの近況やコンサート情報を奏友会新聞に掲載しませんか?原稿をお待ちしております

♪原稿締切:2/22

♪発送予定:3月上旬

♪原稿文字数:400字程度

♪テーマ:自由(原稿の題名、卒業期もお忘れなく!)

原稿送付先:soyukai83.sinbun@gmail.com

原稿はWordなどの文書作成ソフトで書き、PDFも添付してお送りください。写真、画像はそのまま添付してください。

編集後記

北鎌時代の友人と久しぶりにおしゃべりしてきた後に、この原稿を書いています。ああ喉が痛い…笑(ii.a.)

先日、卒業後初めてキタカマの定演を聴いて参りました。合唱「学園の四季」に感動、当時の思い出が甦りました。(T子)
来年で大学生活が折り返し地点になるので、身を引き締めてこれからも頑張っていきたいと思っております!新入学生が来るのも楽しみに待っています♪(shion.s)

先日、私の大学入試からなんと1年が経ちました。北鎌の後輩たちが来年度入学してくるのを楽しみにしています!(ayane.u)